

熊本県の観光・レジャーに関するアンケート(2022年3月調査)

「熊本県の観光・レジャーに関するアンケート(2022年3月調査)」を実施した結果を公表いたします。(発送数:279、回収数:110、回収率:39.4%、回収期間:2022年3月1日～2022年3月11日)本アンケートは、県内の観光・レジャーの動向をいち早く捉えるために実施しております。

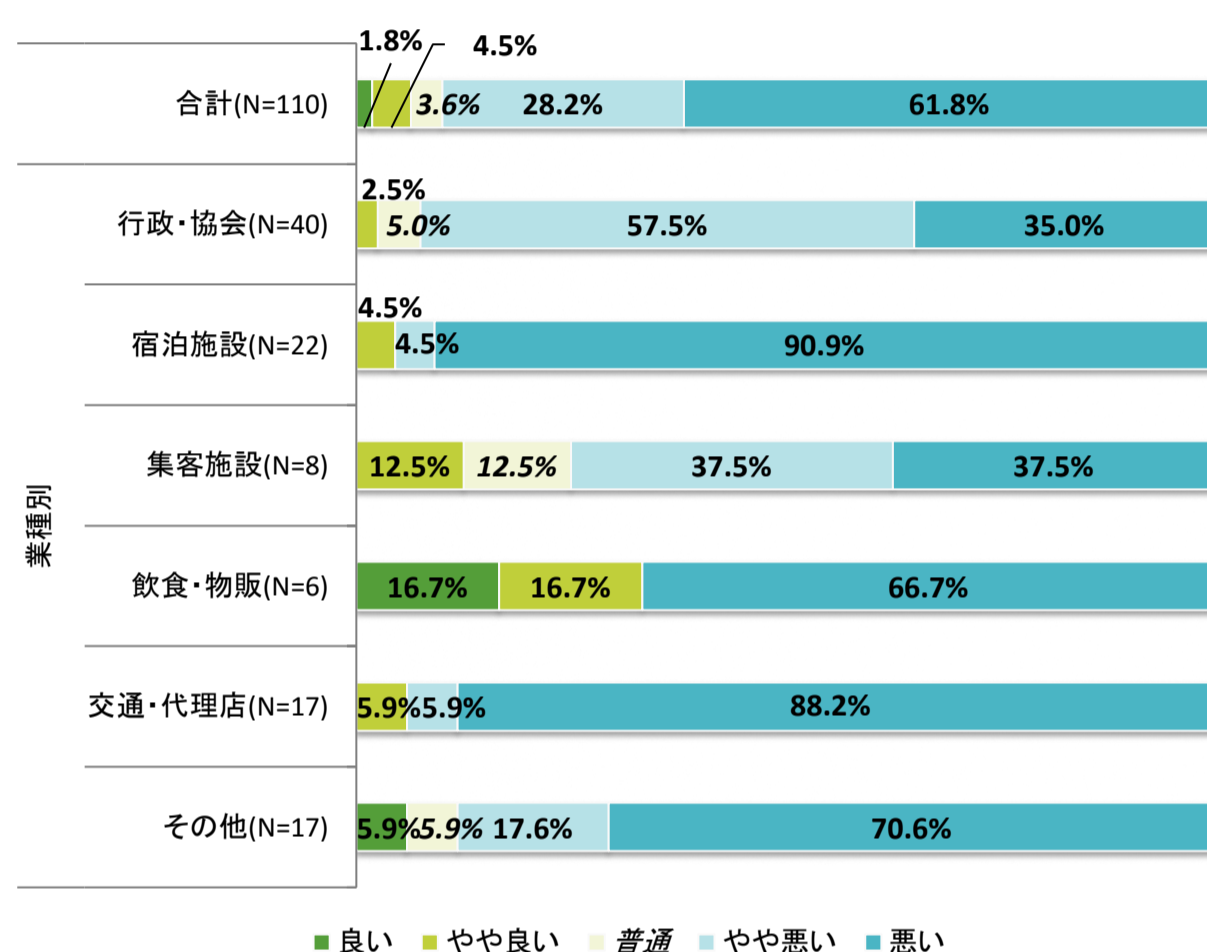
1. 熊本県観光DI まとめ

	現状判断DI (1月～3月)	見通しDI (4月～6月)
合計(N=110)	14.1	63.2
行政・協会(N=40)	18.8	66.9
宿泊施設(N=22)	4.5	60.2
集客施設(N=8)	25.0	68.8
飲食・物販(N=6)	29.2	62.5
交通・代理店(N=17)	5.9	54.4
その他(N=17)	13.2	63.2

1～3月の熊本県の現状判断DIは14.2となり、前期(42.6)に比べて大幅に低下した。12月下旬以降、オミクロン株の流行により新型コロナウイルスの感染が県内外で再拡大し、熊本県でもまん延防止等重点措置(期間:1/21～3/21、重点措置区域:熊本県全域)が適用されたことなどから、景況感を「悪い」もしくは「やや悪い」とした事業者等が9割となった。特に交通・代理店、宿泊施設では、DIが10を下回った。

また、見通しDIは63.2となった。「良くなる」「やや良くなる」のコメントをみると、まん延防止等重点措置等の解除されれば人流が回復が見込めること、春休みやGWなど人出が増えやすい時期となること、また、今後のGo Toキャンペーンなど各種キャンペーンに期待しているという理由が多数を占めた。一方で、今後も感染状況に大きく左右されることから「予測できない」といった声や、世界情勢や物価高騰による影響を懸念する声もあった。

2. 1～3月期の動向、景況感

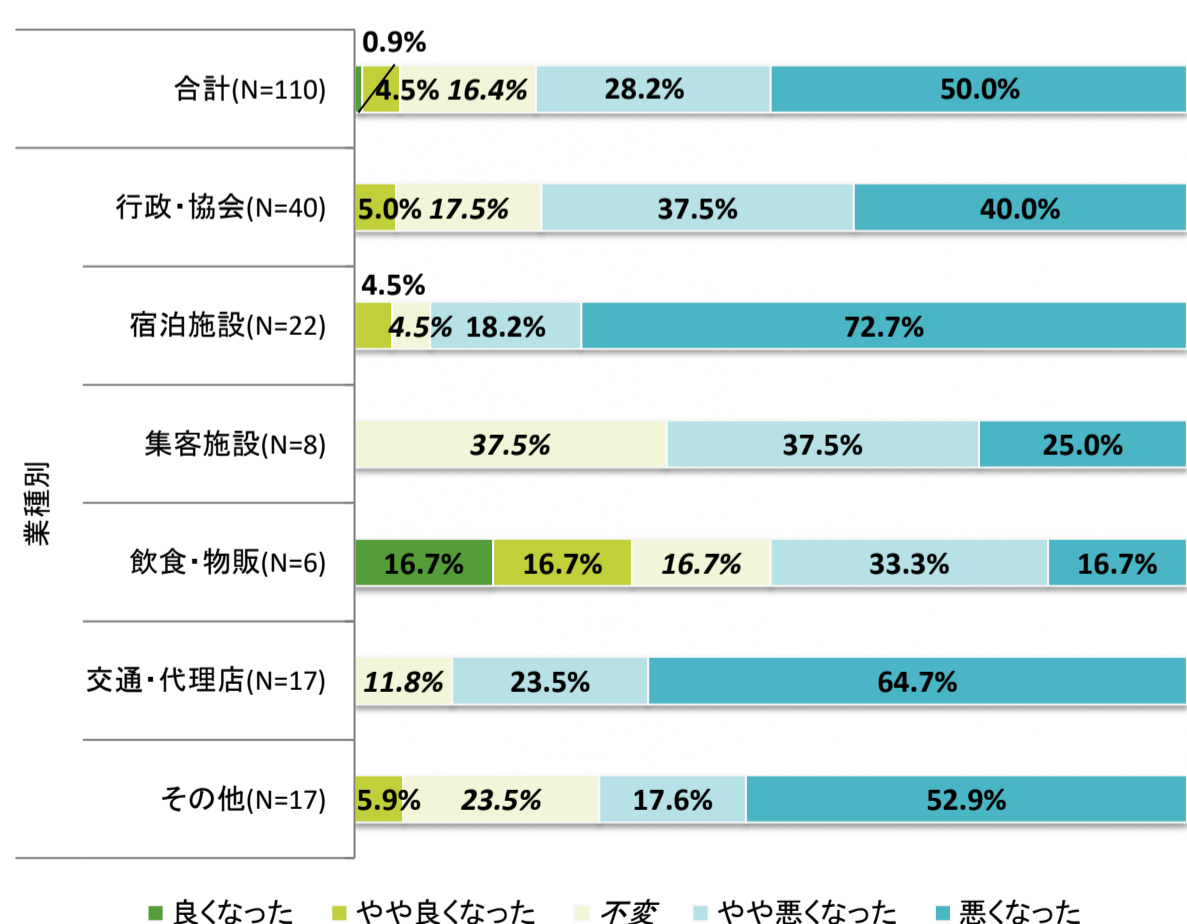


1～3月の景況感は、全体では「良い」「やや良い」の合計が6.3%、「悪い」「やや悪い」は90.0%となった。

【コメントの抜粋】

- 良い
 - ・明らかに人出が多くなっている(飲食・物販)
- やや良い
 - ・コロナ禍ではあるが、3月に入り観光目的のお客様が少しずつお越し頂いている(交通・代理店)
- 普通
 - ・オミクロン株の影響は大きいですが、前年より改善(集客施設)
- やや悪い
 - ・まん延防止措置の適用による観光客数の減少(行政・協会)
 - ・まん延防止中で広告がとまっている(その他業種)
- 悪い
 - ・第6波のまん延防止措置発令や旅行割引助成などの停止もあり、一般・団体含めて動きがほとんどない(交通・代理店)
 - ・宿泊・宴会・レストラン需要が大幅に低下(宿泊施設)
 - ・まん延防止措置により、人流が完全に止まってしまった。観光業(飲食・宿泊含む)は休業等になっている所が多く、卸業が困窮している(行政・協会)

3. 2021年10～12月期に比べて1～3月の動向、景況感

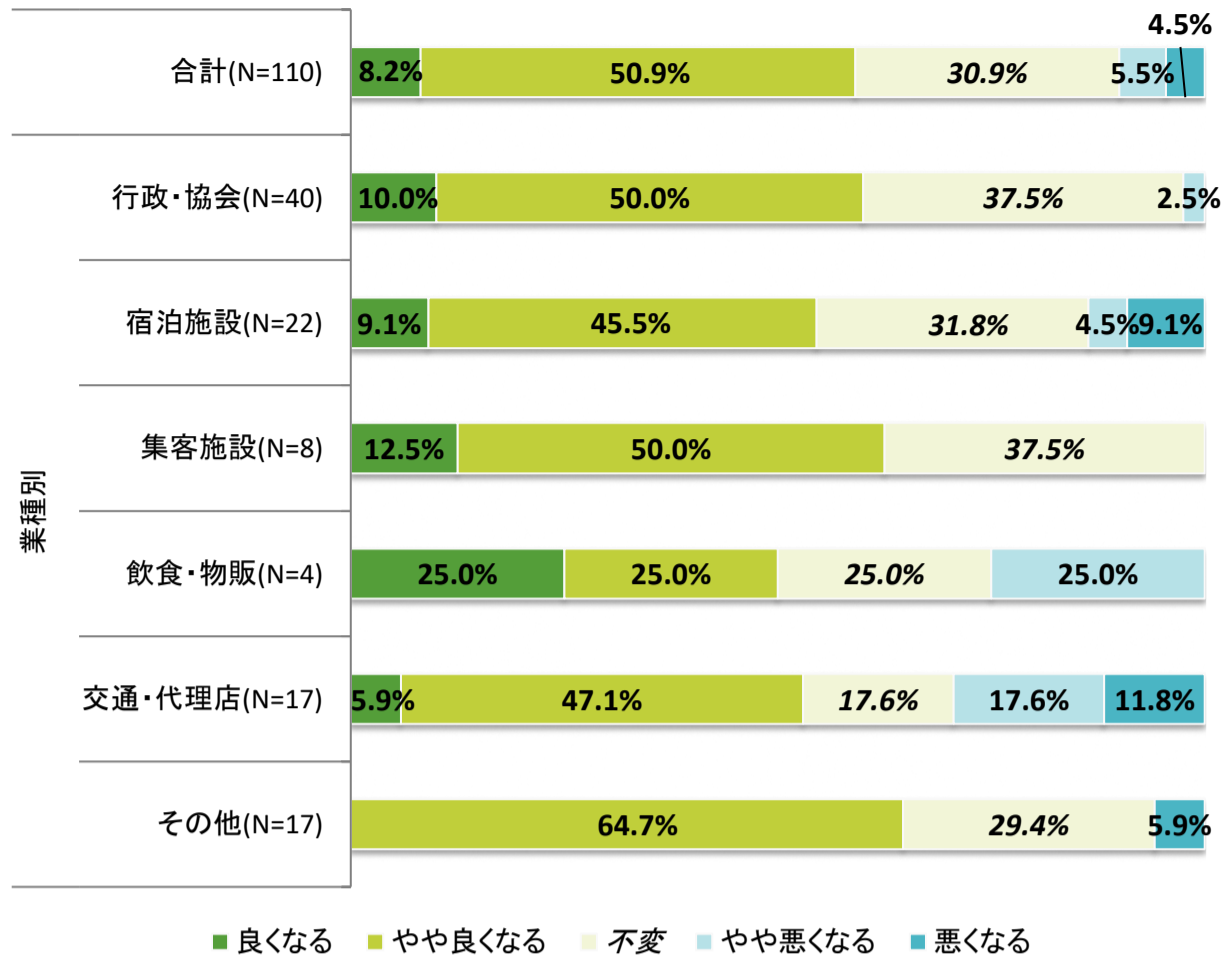


10～12月期に比べて1～3月の動向・景況感は、全体で「良くなった」と「やや良くなった」の合計は5.4%であった。また、「悪くなった」と「やや悪くなった」の合計は全体では78.2%で、特に宿泊施設では90.9%、交通・代理店で88.2%であった。

【コメントの抜粋】

- 良くなった
 - ・人手が多くなっている。完全自粛から、気をつけながら外出という意識に変わっているを感じる(飲食・物販)
- やや良くなった
 - ・飲食店時短要請であっても、休日などの入込客は増えているかも(行政・協会)
- 不変
 - ・景況に係る調査にて、売上の回復が聞こえない(その他業種)
 - ・10～12月と比較してもお客様の動きに変化を感じない(集客施設)
- やや悪くなった
 - ・オミクロン株の感染拡大により、旅行予定者のキャンセルや、市内施設の休館、イベントの中止などが相次いだため(行政・協会)
 - ・コロナ感染症拡大とまん延防止措置実施によるお客様の出控え(交通・代理店)
- 悪くなった
 - ・10～12月は旅行業の動きが活発だったが、1月以降動きがとて鈍くなった(飲食・物販)
 - ・くまもと再発見の旅適用事業の停止に伴い、予約が大幅に落ち込み、各行事・イベントの中止による影響が大きい(宿泊施設)

4. 今後、6月までの業況の見通し



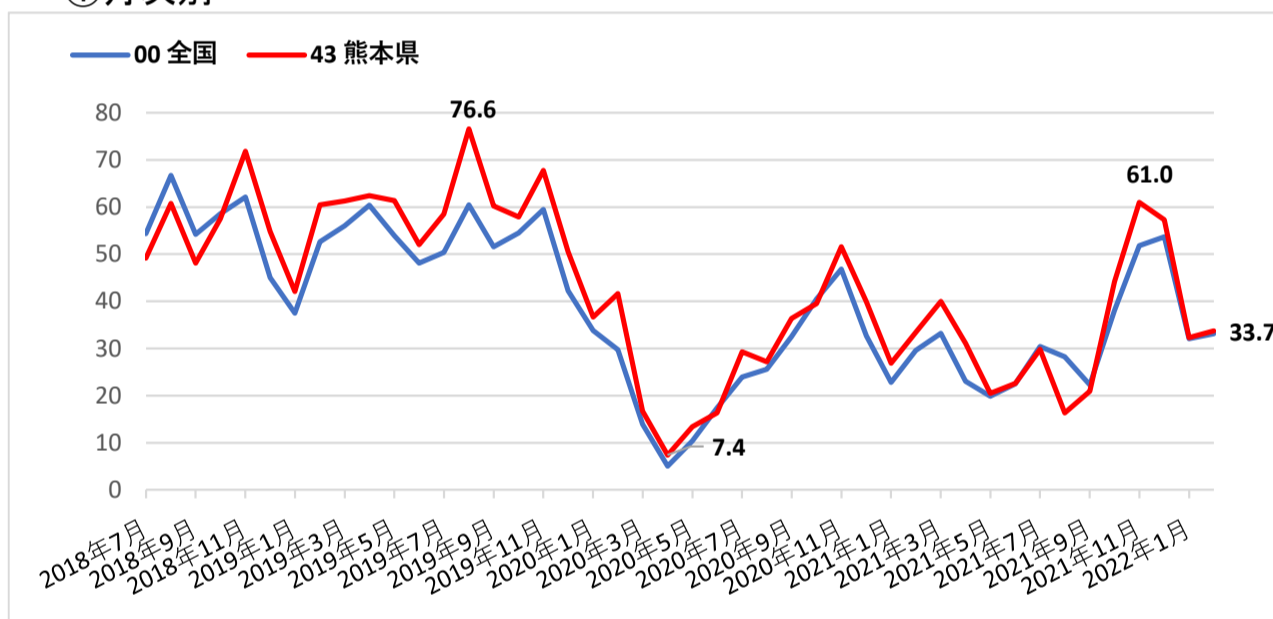
今後6月までの業況の見通しは、全体で「良くなる」と「やや良くなる」の合計は59.1%、「悪くなる」と「やや悪くなる」の合計は10.0%となっている。
 まん延防止等重点措置の解除による人流回復が見込める、今後のGo Toキャンペーンなど各種施策に期待しているという声が多かった。一方、コロナによる行動制限やガソリン価格高騰による出控えにより、利用客の回復が見込めないとの声もあがった。

【コメントの抜粋】

- 良くなる
 - ・まん延解除から始まり、様々な施策と連動した観光誘致をいく事で良くなって欲しい(飲食・物販)
- やや良くなる
 - ・Go Toトラベルや熊本県・市の助成金が再開すれば観光客も増え稼働が良くなると思う(宿泊施設)
 - ・観光施設等で若干だが、3月以降の予約が入りはじめ、土日でも少しずつ旅行者が増え始めていると伺っている(行政・協会)
- 不変
 - ・変わらないというより読めない。おそらく春休み・GWで相当の集客を見込めるが、それ以降のコロナ拡大によって修学旅行の中止延期が出てくるのかという所が不安(集客施設)
 - ・コロナの感染状況に大きく左右されると思われるため全く分からない(交通・代理店)
- やや悪くなる
 - ・コロナによる行動制限やガソリン価格高騰による出控えにより、利用客の回復が見込めないため(交通・代理店)
- 悪くなる
 - ・コロナ関連の補助金を使用しての仕事が昨年度は多かったため、終了後は動きが鈍ると予想(その他業種)

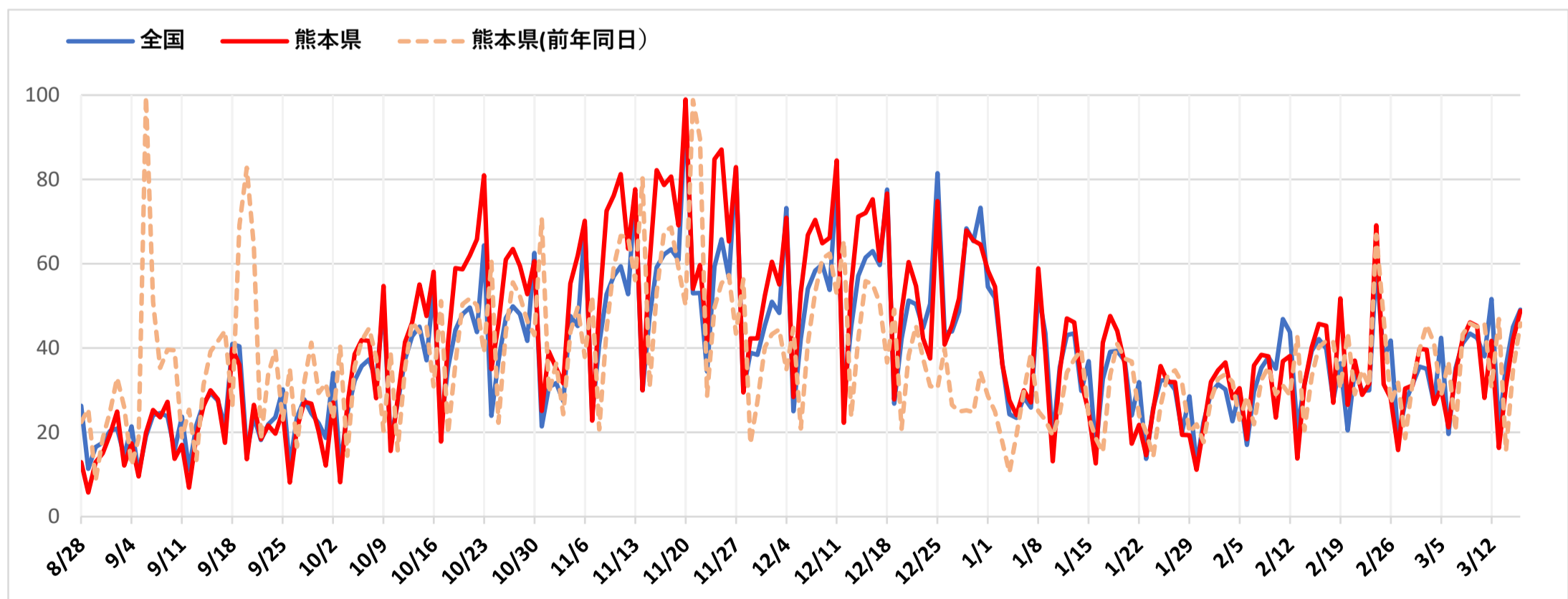
5. 宿泊稼働指数の動向

① 月次別



2021年12月における熊本県の宿泊稼働指数は 57.3、2022年1月は32.3、2月は33.7となり、2021年11月(61.0)から大幅に低下した。また、12月の前年差は17.4pt、1月は5.4pt、2月は0.3ptとなった。
 2021年12月までは、新型コロナウイルスの感染が落ち着いていたこと、宿泊キャンペーンの実施等により宿泊稼働は改善傾向にあったが、1月以降は感染再拡大による旅行マインドの低下、各種キャンペーンの一時停止、またまん延防止等重点措置が適用されたことで、宿泊稼働は大幅に低下することとなった。
 エリア別では、熊本市エリアで指数が低く、また熊本市・阿蘇・山鹿・八代エリアで11・12月時点から大きく低下している。

② 日次別



宿泊稼働指数を日次別(原数値)で見ると、2021年の10月後半からは感染状況も小康状態となったことから徐々に改善傾向となり、11月には週末は毎週70ptを上回る稼働となった。その後も年末までは比較的高い水準を継続した。しかし、年が明けた1月からは、平日・休日ともに稼働指数が低下し、まん延防止等重点措置が適用された1月21日以降、稼働指数は20~40ptで底打ちの状態が続いた。2月の後半からは稼働指数が40.0ptを超える日も増えてきている(2月24日の稼働が高いのは、翌日が国立大学の受験日のためと考えられる)。特に隣県の福岡県などのまん延防止等重点措置が解除された3月7日以降、40ptを超える日が増えている。
 なお昨年と比較すると、冬季における新型コロナウイルス感染拡大のピークが遅かった(2021年(第3波):1月8日、2022年(第6波):1月27日)ことから、1月前半の稼働指数は昨年より高かったが、以降は昨年と同様の推移になっている。

用語解説

※DI(ディフュージョン・インデックス)

同調査におけるDIは、現在の景況感(現状判断)、現在と比べた3ヶ月後の見通し(先行き判断)に対する5段階の判断に、それぞれ点数を与え、これらの回答区分の構成比(%)を乗じたものである。(良い…+1、やや良い…+0.75、変わらない…+0.5、やや悪い…+0.25、悪い…0)。DIが50を超えた場合、景気が上向いていることを示す。

※宿泊稼働指数

宿泊稼働指数は日次の空室の水準を指数化したもので、(公財)九州経済調査協会が推計・公表。原数値は0から100の間の数値をとり、稼働状況が良い場合は100に、稼働状況が悪い場合は0に近づく。なお、2020年4~6月分については、緊急事態宣言による休業が多く発生していたことから、同期間に営業していた施設のみを分析対象としている。

具体的には、以下の式より算出している。

$$100 - \left(\left(\text{当日の空室数} - \text{当日を含む過去730日の最小空室数} \right) / \left(\text{当日を含む過去730日の最大空室数} - \text{当日を含む過去730日の最小空室数} \right) * 100 \right)$$

本稿では、①月次別では、日次(原数値)データを7日間周期のデータとみなして要因分解し、曜日要因を除いたものを単純平均したもの、②日次別では原数値を使用している。